



photo: Eri Tanaka

江里ブログ

## 話題の腸内フローラと 疾患の講演会②

高脂肪食が腸内細菌のバランスを変え、それが腸の細胞のバリアを低下させることで（tight junctionに関係）血液中に菌が回り、炎症を起こして糖尿病などのメタボを引き起こすという説が説明されていました。

2型糖尿病の人ではよく調べると28%の人が血液中から少量の菌が出るそうです。またICUなどに入室する重症な状態の人は腸内フローラが乱れ、24時間以内という早期に嫌気性菌・ブドウ球菌が増え、それらが乱れるほど死亡率が高いことも出ています。

腸内有機酸（酪酸、酢酸、乳酸）は腸内細菌から作られますが、腸管の蠕動運動を亢進させたり、また腸管上皮の主なエネルギーになったりします。そして殺菌作用も持っています。糖尿病や重症患者ではこれらが低下することも知られています。腸内環境を改善することで疾患の予後も改善できるということが試みられており、腸管の手術の前からヤクルト、ミルミル、オリゴ糖を投与することで腸管からのバクテリアアルトランスロケーション（細菌の血中への移行）が抑制され、術後感染も抑えられるそうです。

化学療法中の患者さんにも有効な考えかもしれないと思います。まだまだ面白いことが出てきそうな領域です。

【2017年1月13日江里ブログより】

